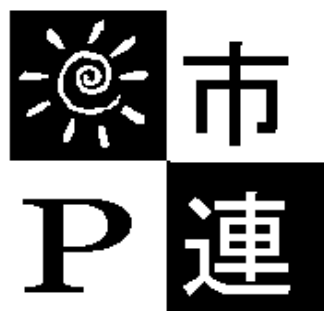




子どもたちの明るい未来のために

日立市立小・中学校PTA連合会



広報誌 第41号 情報委員会

～ も く じ ～

- | | |
|---------------|----------------------------|
| (1) 表紙 | (7) 日P全国大会長崎大会 参加報告 |
| (2) 会長挨拶 | (8) 日P関東ブロック大会さいたま市大会 参加報告 |
| (3) 生涯学習委員会報告 | (9) 寄稿「PTAとの連携について」 |
| (4) 未来委員会報告 | 日本PTA全国協議会会長表彰 受賞報告 |
| (5) 情報委員会報告 | (10) 日立市教育振興大会 発表報告 |
| (6) 母親委員会報告 | (11～13) 寄稿「震災後3年を経て」 |
| | (14) 茨城県PTA振興大会表彰式典 受賞者紹介 |



平成26年度 日立市立小・中学校PTA連合会スローガン

共にがんばろう！ ひたち

日立市立小・中学校PTA連合会 会長挨拶 会 長 志摩邦雄



早2年目の春を迎えようとしています。1年目以上に確実に感じるのですが、この社会は常に動いている、しかも大変なスピードで変化していると。国際的なテロに日本人が巻き込まれたり、国内でも2～3年前なら衝撃的ニュースであったであろう事件が、毎日のように報道されたり、時にその情報に耳をふさぎたくなります。

今年は戦後70年の節目を迎えます。私たち保護者世代が社会を作る中心的役割を担い、次世代を育てる主役となってどんな未来を描くのか、あらためて一人ひとりが問い直す必要があると思います。最近聞いた講演で、茨城大学准教授の長谷川幸介先生は「人類は一人では生きていけない弱い存在だ。社会とは弱い人類が幸せになるための装置だ。常に強固にしていけないと、装置は徐々に壊れてしまう」と。筑波大学名誉教授の門脇厚司先生は「人生を幸福で豊かなものにするために、大人も子どもも社会力の向上が必要である」と説く。市P連の各委員会活動は、関わるPTAの社会力向上に貢献していると確信しています。

ご理解・ご協力いただきました関係機関の皆様、誠にありがとうございました。末筆になりましたが、市内40校の会長さん、母親委員さん、そして幹事局員、事務局員等多くのみなさん、私は、みなさんと市P連の活動をがんばれていることに誇りを感じております。心より感謝いたします。



役員打ち合わせ



常任委員会

市 P 連 事 業 報 告

- 5月10日 平成26年度定期総会
- 5月13日 第1回役員会
- 6月 3日 第1回常任委員会
- 6月28日 第1回単P会長会議
- 7月 1日 第2回役員会
- 9月 2日 第3回役員会
- 9月16日 第2回常任委員会
- 10月18日 第2回単P会長会議
- 10月21日 第4回役員会

- 10月28日 第3回常任委員会
- 11月 8日 日立市教育講演会
- 1月 7日 第5回役員会
- 1月20日 第4回常任委員会
- 2月20日 第3回単P会長会議
- 2月24日 第6回役員会
- ＜今後の予定＞
- 5月 9日 平成27年度定期総会

生涯学習委員会 報告

委員長 竹山広行



今年度の生涯学習委員会は15名のメンバーで、テーマを「PTA活動を考える」と掲げ、単P会長の支援、単PにおけるPTA活動の活性化を図るために今のPTA活動について理解を深め、そしてこれからのPTA活動の在り方について考え、活動しました。

第1回単P会長会議では、教育委員会指導課指導主事の藤田博隆先生に「学校の先生とPTA」という演題で、教育する側からPTAに求めたいことをお話していただきました。講話の結びでは、①PTAと学校の視点を同じにする、②学校はグランドデザインをきちんとPTAに伝える、③委員会が話し合ったことを学校に伝えてその内容を共有する、という願いがありました。その後の委員会ではこれらを果たすには普段からのPTA（保護者と先生）としての交流を深める必要があると、委員全員共通の認識が得られました。

第2回単P会長会議では、文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室連携支援係係長の熊切隆さんを講師としてお招きしました。「日本のPTAの歩み」という演題で日本のPTAの歴史にも触れて、PTA活動についてエネルギーに語られました。その後のパネルディスカッションでは、テーマを「PTA活動の課題、学校の課題 私たちのPTA活動、向かうべき姿は？」と題して、元市P連会長の原田実能さんをコーディネータに、さらにパネラーに日立市教育研究会副会長の河合恭子先生に加わっていただき、心を込めたディスカッションを来場された皆様に届けることができました。

第3回単P会長会議では当初、PTAを日本に伝えたアメリカより講師を招いて講話いただく予定でしたが、力及ばず、私から「アメリカのPTA活動と日本のPTA活動について」の演題で話させていただきました。その後のグループディスカッションでは活発な意見交換が行われ、グループ発表では「市P連があって良かった」という嬉しいお言葉もありました。

1年間、生涯学習委員会のメンバーをはじめ多く皆様にたくさんのご協力を賜り、よりPTA活動について理解を深め楽しく活動することができました。ありがとうございました。



熊切 隆さんの講演



パネルディスカッション パネラーのみなさん



活動状況

- 6月28日 第1回委員会
- 9月18日 第2回委員会
- 10月18日 第2回単P会長会議
- 2月 1日 第3回委員会
- 2月20日 第3回単P会長会議
- 3月 1日 第4回委員会

未来委員会 報告

委員長 赤津光司



未来委員会のメイン事業は、11月8日(土)教育講演会の開催でした。講師は、落語家・桂才賀師匠をお迎えしました。落語家になったいきさつ、自衛隊入隊、笑点のエピソード、1,000回を超える少年院・刑務所慰問活動のきっかけや様子を豊富な人生経験からお話いただきました。最後の少年少女からのメッセージの朗読では、万感胸に迫る思いで来場者も聞き入っていました。今年度の未来委員会スローガンは「気づいて

みよう、周りの心のサインに」としましたが、大切な家族や職場・友人ほか周りの人たちの心の声に寄り添い気づく大切さを、あらためて桂才賀師匠から教えていただきました。

師匠をお見送りする時に「師匠がここまで慰問活動を精力的にできるのはなぜですか？」と尋ねますと「それは道楽だからだよ」とおっしゃっていました。道楽の意味には、酒や娯楽以外に「仕事とは別に夢中にできることにふけり、楽しむこと」という意味があります。楽しみは、素敵な生き方につながっていきます。

著書「子供を叱れない大人たちへ」「刑務所通いはやめられねえ」の収益の一部は、交通遺児に寄付されています。市内各図書館にもリクエストし、この2冊を置いていただきました。皆様もこの熱い気持ちに触れていただければ嬉しい限りです。

事前の準備を周到にできたことや当日の各係のチームワークが、今回の素晴らしい講演会に結びついたと思います。1年間の委員会活動でPTA組織を通した同志と出会え、私自身も人としての幅が広がりました。皆々様のご協力のおかげで未来委員会を運営できたことを心から感謝申し上げます、報告とさせていただきます。



熱い思いが伝わりました



桂才賀師匠を囲んで



活動状況

- 6月28日 第1回委員会
- 8月25日 日立市教育振興大会（教育講演会PR）
- 9月 9日 第2回委員会・第1回教育講演会運営委員会
- 10月28日 第3回委員会・第2回教育講演会運営委員会
- 11月 8日 教育講演会
- 11月25日 第4回委員会・第3回教育講演会運営委員会

情報委員会 報告

委員長 金川勝也



平成26年度の情報委員会は、13名で務めさせていただきました。1年間を振り返ってみますと、出席率は回を追うごとに少なくなりましたが、情報交換などはしっかりできたと思います。

委員会活動内容としては、ホームページ更新頻度は相変わらず少なかったのですが、各学校・学区での取り組みなどを多少なりとも紹介できて良かったと思います。

ブログに関しては、勉強会を開催して立ち上げましたが、なかなか思ったようにはいかず、次年度への課題として引き継いでいきたいと思っています。

広報誌「みらい」では、原稿依頼の難しさを実感しました。締切の期日設定を早めにしたのですが、なかなか回収できずに苦労しました。ただ、快く引き受けていただきましたみなさんの文章は、熱意に満ちた素晴らしいものであったと思います。心より感謝申し上げます。

「単Pから全国へ発信」とテーマを掲げて始めました今年度ですが、全国へ広がったかどうか分かりません。でも、各校のPTA会長が集まり、短い時間の中で同じ目的意識を持ちながら活動することが、如何に大事かをあらためて感じた次第です。

最後に、みなさんと共に活動を通して触れあえたこと、支えていただいたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



ホームページや広報誌について
いろいろなアイデアが提案されました

日立市P連ホームページはお役立ち情報が満載！ぜひご覧ください

“日立市P連”で検索ボタンをクリック！

URLはこちら ↓

http://www.net1.jway.ne.jp/pta_info/

活動状況

- 6月28日 第1回委員会
- 8月 6日 第2回委員会
- 11月29日 第3回委員会
- 2月18日 第4回委員会
- 3月 1日 広報誌みらい41号発行

母親委員会 報告

委員長 鈴木美奈子



母親委員会では「深めよう！コミュニケーション」をテーマに全5回の委員会を開催しました。

今年度は「お弁当を作ろう！」と題して、初の親子参加型委員会にチャレンジしました。日立市健康づくり推進課の管理栄養士の方々のご協力もいただき、材料の計量から始まり、調理等の全てに子どもたちが関わり、手作りのお弁当を仕上げました。「今でも時々、子どもが作っ

ています」と感想をたくさんいただいています。

また、スマートフォンの普及につれて子どもたちのSNS(ソーシャルネットワークサービス)利用についての不安や疑問が私たち母親の課題でもあると考え、KDDI ケータイ教室認定講師の講話をお聞きしました。スマートフォンだけではなく、インターネットに関する様々な問題についても詳しく知ることができました。そして、今年度最後の委員会では、昨年度に引き続き日立市教育委員会・中山教育長と委員全員での情報交換をしました。

その他の研修会等を通して、今年度のテーマであるコミュニケーションを考える機会をたくさん持てました。現代のコミュニケーション方法は様々なものがあり、離れていても簡単に連絡がとれて時間を短縮することができる等、便利ながたくさんあります。けれども簡単で便利になった反面、そこに感情を込めることが難しくトラブルに繋がることもあります。それはコミュニケーション不足と言えるのではないのでしょうか。離れていても相手の顔を思い浮かべ、たとえ対面していても相手への思いやりを持って、これからもコミュニケーションを深めていきましょう！

今年度の活動へのご理解とご協力をありがとうございました。



おいしいお弁当、できました！



活発な情報交換



活動状況

- 6月28日 第1回委員会
- 7月30・31日 第2回委員会
- 11月11日 第3回委員会
- 12月 4日 第4回委員会
- 2月12日 第5回委員会

第62回日本PTA全国研究大会 長崎大会 参加報告

とき 平成26年8月22日(金)～24(日)

副会長(未来委員長) 赤津光司

私が参加した長崎大会分科会での基調講演では、ジャパネットたかたの代表取締役社長(現在は退任)・高田明氏から、魅力的でもあり心の熱くなるお話を聞くことができました。

テーマは「感動を伝えたい“夢持ち続け日々昇進”」。65歳という年齢を超越するポジティブシンキングのエネルギーは、まさしくテレビのコマーシャルメッセージの通り。物を伝えるということは、言葉の他でも目であったり、表情であったり、ボディランゲージ、そしてその人自身が醸し出す、伝えようとする気持ちが受け手に感動を伝えることができます。

また「PTAという組織も、生徒(student)を含めた『PTSA』組織に見直しがあっ
ておかしくない時期を迎えているのかもしれない」という言葉には、時代に鋭敏な優れた経営者
ならではの感覚を教えてくださいました。

続いてのパネルディスカッションでも、パネリストとしてユーモラスな発言で会場を和ませて
いただきました。同席の小学校PTA会長の意見も、等身大の意見で好感や共通の認識を持つこ
とができました。行政からは、佐賀県武雄市フェイスブック・シティ課長が参加し、双方向の情
報の交換が求められる時代を強調していました。

翌日の全体会は、伝統舞踊「龍の舞」で温かくお迎えを受け、セレモニー終了後、育児漫画家
の高野優氏の講演がありました。プロフェッショナルかつユーモラスなイラストを描き上げなが
ら話す講演は、とても印象に残りました。子は育ち、親も育つ。楽しまなくちゃもったいない。
母としての温かなまなざしは、心のファインダーに残りました。

「長崎は今日も雨だった」という懐メロの歌詞の通り、雨で始まった全国大会でしたが、遠く
異国情緒豊かな長崎で、PTAという絆の同志が集い学び合うという空間が共有でき、また県北
P連の参加者の方々とも交流を深めることができ、本当に有意義な2日間でした。



茨P連のみなさん



日立市P連を代表して

第46回日本PTA関東ブロック研究大会 さいたま市大会 参加報告

とき 平成26年10月25日(土)～26(日)

河原子学区親父の会副会長 川崎 修

佐藤潤弥

「ささえあい いのち尊び たくましく まごころつなぐ 子どもたちに ～五つのことだま
子は親の鏡 生き抜く力を子どもたちに～」の大会スローガンの下、関ブロさいたま市大会が開
催され、茨城県内から集まった126名（日立市P連から9名）のPTAの仲間と共に参加しま
した。

初日の分科会では、茨城県代表で活動事例発表をする成沢小学校おやじの会の応援のため、第
1分科会「地域連体」を聴講しました。研究テーマは「絆 つながっていますか？家庭・学校・
地域をつなぐ親の役割」で、埼玉大学教育学部准教授の菊原伸郎氏による「たくましくしなやかな
子どもたちを育むため今大人が考えすべきこと」の講演がありました。

その後、成沢小学校おやじの会の「地域親として活動する成沢小おやじの会」と静岡市立清沢
小学校PTA清沢てんぐの会の「父親の教育参画の向上 清沢式学校応援団～『みんな我が子』
が地域をつなぐ合い言葉～」の研究発表がありました。

この2団体が上映したDVDでは、普段見ることがない生き生きとした子どもたちの姿が映し
出され、子どもたちにできないことは何もない、褒めて伸ばすことの大切さを教えていただきま
した。これからは子どもがチャレンジする時、失敗しても叱らず褒めながら温かい目で見守り続
けていきたいと思います。

2日目の全体会の記念講演では、さいたま市出身の歌手・沢田知可子さんによる「ココロとカ
ラダに優しい歌葉（うたぐすり）」と題したトーク&ミニコンサートが行われました。沢田さんの
歌とご主人のピアノで、歌を通して私たちを少年・少女の頃の思い出（甘くてせつない初恋）の
時間旅行へ連れて行ってくれました。特に「g i f t」が歌われた時は、感情のこもった沢田さ
んの歌声に会場全体が涙で包まれ、私たちの目からも涙があふれて止まりませんでした。とても
素晴らしい心に残る記念講演でした。

この2日間は、茨城県内のPTAの皆様にたいへんお世話になり、とても充実したPTA研修
でした。私たちに貴重な機会を与えていただいた日立市P連の皆様に関心より感謝を申し上げます。



開会宣言



沢田知可子さんと

PTAとの連携について

日立市教頭会 会長 天下井一雄



日立市立小・中学校PTA連合会の皆様には日頃からたいへんお世話になり、感謝申し上げます。

日立市教頭会を代表いたしまして、ご挨拶をさせていただきます。

PTAは発足した当時、保護者と教師の協力を主な目的にしていたと聞いています。確かにこの二者が相互理解を深め、学校教育の振興に努めるのは大切なことと思います。

しかし「開かれた学校づくり」が求められる時代となり、地域社会との連携強化が不可欠になり、PTAの役割自体が大きく変化してきているように感じます。例えば、これまでの学校行事の枠を越えて地域との連携による行事を実施する場合、PTAのみなさんの協力なくしては成り立ちません。特に東日本大震災以降の学校と地域との防災対策はその典型です。私の勤務校でも、防災講演会や共同避難訓練、そして交通安全のための学区パレードなどPTA担当のみなさんの橋渡しのおかげでスムーズに運営されています。

学区改変や統合等により地域から学校がなくなる淋しさについて、時折テレビなどで見るがあります。児童・生徒のために、保護者、教師、地域のみなさんとが一致協力して活動できることをたいへん幸せに感じています。

日本PTA全国協議会会長表彰 受賞報告

中小路小学校父母と先生の会 会長 竹山広行



11月19日(水)、ホテルニューオータニにて開催された平成26年度PTA年次表彰式におきまして、私の所属している「中小路小学校父母と先生の会」が公益社団法人日本PTA全国協議会

会長表彰（団体）を受賞いたしました。

この受賞は工夫を重ねてきたPTA活動の成果と地域一体となつての子育てが高く評価され、関係各位より推薦を受けました。私は日頃から会員の皆様には「楽しくPTA活動をしましょう」と言っておりますが、昭和23年4月から始まった当校のPTA活動は、決して楽しいだけではすまされない困難な状況や課題、長い歴史の中では時としてPTA活動の目的さえ見失ったこともあったことだと思います。「すべては子どもたちの笑顔のため」という尊い理念と志の下、そのような状況を克服し乗り越えてきたからこそ、今のPTA活動があると確信しています。それを成し遂げた諸先輩方に心から感謝する次第です。

実際の表彰状は11月30日(日)に開催された茨城県PTA振興大会表彰式典で、茨P連の加藤会長より手渡されたのですが、その式典会場に着いた時、スタッフとして参加していた日立市P連や県北P連のみなさんが笑顔で出迎えてくれました。仲間にも喜んで、そして祝ってもらえて私は幸せな気持ちで一杯でした。本当にありがとうございました。

日立市教育振興大会 発表報告

中小路小学校父母と先生の会 会長 竹山広行



8月25日(月)に開催された日立市教育振興大会において、「R・Sパパクラブ」の活動について当クラブ伊東靖人会長と共に活動事例の発表を行いました。発表の内容を抜粋してご紹介させていただきます。

【 R・Sパパクラブの紹介 】

中小路小学校PTA会員やOBなど18名で構成された中小路学区内で活動している「おやじの会」です。以前、旭町で行われていた夏祭りでは、子どもたちがお神輿を担いで町を練り歩いていました。その夏祭りを復活させて子どもたちにお神輿を担がせてあげたいという想いで、平成19年に旭町・幸町を中心としたおやじたちで「R・Sパパクラブ」を立ち上げました。その後、東日本大震災を機に中小路学区全体を対象として活動しています。

【 主な活動内容について 】

＜駄菓子祭り＞

子どもたちに一定のお小遣いを与え、自分の考えで買い物をさせ、お金の使い方を学ばせます。同時開催の「紙飛行機飛ばし大会」は、昔ながらの紙飛行機を子どもたちに作ってもらい、飛距離を競い合う大会です。よく飛ぶ紙飛行機の作り方として、丁寧に紙を折ることを子どもたちに指導しています。

＜Sportsかるた大会＞

新たな試みとして「かるた」に「スポーツ」の要素を取り入れたかるた大会を考案し、平成26年1月5日に中小路小体育館にて「第1回(T・T)W Sportsかるた大会」を開催しました。

* (T・T)W 「とって!とって!ウォ!」の略。

【 今後の展開 】

子どもたちが楽しみながら体力アップを図り、記憶力アップと郷土愛を育む「Sportsかるた大会」を普及させるためにも、大会の開催を重ねていきたいと思います。

日立市教育振興大会は1,000人を超える来場者があり、さすがに発表は緊張しました。

「R・Sパパクラブ」は、今後も子どもたちのために活動してまいります。



大震災その後の対策

河原子中学校PTA 会長 鈴木啓之

東日本大震災で河原子学区は地震の揺れによる被害に加え、河原子漁港から南浜海岸にかけて4mを超える津波による（津波遡上跡6m）被害を受けました。沿岸部の住宅や旅館、ホテル等は建物損壊や床上浸水し、海岸道路や防波堤は破壊され、市内で最も深刻な状況に陥りました。また、ライフラインは寸断され、電気は5日間、ガス・水道は11日間供給が途絶えました。

これらの教訓を活かし河原子地区では、コミュニティ推進会やその他関係各所、学区ボランティア等の有志の方々と防災対策について検討し“防災マニュアルの作成”と“実情にあった防災訓練の実施”⁽¹⁰⁾をすることとし、まず2011年12月10日（日）に津波を前提とした避難訓練を行いました。対象地域を学区内の国道245号線海側とし、一時避難所を指定して、低地から⁽¹⁰⁾高台を目指し最終避難所の河原子小学校に避難しました。震災後初の訓練ということもあって、参加者は事前調査より多く398名でした。

つぎに、2012年11月10日（土）に日立市全域参加の大規模な避難訓練を行いました。昨年までの河原子小学校に加え、新たに河原子中学校も避難所に設定し、参加人数は860名で住民参加率は15.6%でした。

そして、2013年11月10日（日）には地域住民の一般参加者に河原子小学校の全児童・保護者が加わり、消火訓練、煙体験、大声訓練、防火用DVD鑑賞、おにぎり作り体験、保護者への引き渡し訓練等、多様な訓練を行いました。今回は河原子中学校の生徒たちがスタッフとして参加し、訓練参加者の避難所受付や誘導、けんちんうどんの炊き出し等の手伝いをしました。参加人数は924名で住民参加率は16.8%となり、日立市全学区中ダントツの1位でした。

さらに、2014年11月9日（日）には防災講演会を行い207名が参加しました。

防災マニュアルの作成では、津波被害を伝える写真や避難場所マップ、井戸所有地マップ等を盛り込んだ住民用マニュアル全12ページが、2012年8月に完成し、2,300部を学区内住民に配布しました。また、災害時の行動指針を記したボランティア用のマニュアルも作成しました。

以上のような活動を河原子学区ではコミュニティ推進会が中心となって行なってきましたが、震災から3年半が経過した現在、避難訓練では一般参加者の減少が見られ災害への危機感が薄れてきたようにも感じます。この大災害を風化させないためにも、今後も小・中学生、一般住民等を交え、地域全体で「きずな」を深める防災に取り組んでいきたいと思ひます。



避難訓練に参加した住民と
河原子中学生



煙体験をする河原子小の児童



炊き出しを配る河原子中学生

二宮金次郎像 ～子どもたちを見守って～

会瀬小学校PTA 会長 白土文承

会瀬小学校の校門を入ってすぐのところに二宮金次郎像があります。この像は会瀬小学校創立時より、会瀬小学校に在学している会瀬っ子(児童)たちの成長をずっと見守ってきました。今の像は三代目になります。

初代は銅像でしたが、太平洋戦争時に軍需物資として供出され、なくなりました。

戦後二代目の像としてコンクリート製の像が造られましたが、2011年3月11日の東日本大震災において倒壊し、台座のみが残りました。その後、校舎新築工事などのために修復されることなく2年が過ぎました。

昨年、会瀬小学校が創立75周年を迎え、75周年記念式典を行うことが決定しました。その際、地元の30～80歳代と幅広い年代の有志で記念事業の実行委員会が結成され、学校への支援について議論されました。当初、二宮金次郎像の復元の話はなかったのですが、先輩のおひとりから「学びの象徴である二宮金次郎像が学校にないのはおかしくないか」との発案があり、記念事業の一部に織り込むことができないかと議論し、何としても復元させるとの意気込みで個々の予算を切り詰め、何とか織り込める目処がつかしました。

そして、平成26年3月の75周年記念式典にて除幕式を行い、三代目二宮金次郎像をお披露目することができました。三代にわたる二宮金次郎像の経緯を綴った石碑も像の隣に新しく設置され、勤勉・誠実の精神と共に太平洋戦争や東日本大震災を伝えています。

新しい二宮金次郎は、会瀬小学校の歴史と地域の願いを背負って、毎日、会瀬っ子たちを見守ってくれています。



除幕式



みんなを見守ります

新生 水木小学校がスタートしました

水木小学校父母と先生の会 会長 土屋博昭

2011年3月、私たちの水木小は一つの歴史が幕を閉じました。校舎の建て替え、グラウンドとプールは再整備が必要となり、水木小の将来を心配したあの時期が思い出されます。

そして、昨年10月28日に竣工式を執り行い、新校舎建設関連の行事は終了し、新しい歴史の1ページが始まりました。式典の最後に児童たちが制作した新校舎完成までを記録したスライドが上映され、児童たちからの「素敵な校舎を、素敵なグラウンドを、素敵なプールをありがとう」の言葉には、これまでの道のりを思い出し、私も含め多くの出席者が涙した、とても感動的な式典となりました。

当時を振り返ってみると、水木小、大沼小、泉丘中の3校に分かれての授業や、泉丘中のグラウンドをお借りしての運動会、十王プールに移動してのプール授業など、過去に例のないことばかりでした。児童たちの生活に目を移すと、わずかなスペースに設置された遊具での遊び、狭くて全力でできない球技など、そんな制限された環境でストレスを感じながらの学校生活であったと思いますが、工夫し楽しく遊んでいる姿は「子どもは遊びの天才」と言われる通り、児童たちの順応性の高さをあらためて認識し、水木小のめざす児童像のひとつである「たくましく」を感じることができました。

新校舎は、教室のオープンスペース化、太陽光発電や雨水の散水利用によるエコスクールへの配慮、特徴ある外観や屋上庭園など見どころいっぱいの学校ですので、ぜひ一度ご来校ください。

新生水木小がスタートしました。先輩たちが築きあげた良き伝統を継承しながら、次の世代へとバトンタッチしたいと思います。



建て替え前



新校舎



笑顔で全員集合！

水木小学校 <http://www.city.hitachi.lg.jp/mizuki-e/index.html>

平成26年度茨城県PTA振興大会表彰式典

とき 平成26年11月30日(日)
場所 三の丸ホテル(水戸市)

(社)日本PTA全国協議会 会長表彰(団体)

日立市立中小路小学校父母と先生の会

茨城県PTA連絡協議会 会長表彰(永年功労)

鎌田裕一郎さん(久慈小学校父母と先生の会 前会長)
石川 欣央さん(大久保小学校父母と先生の会 前会長)

第36回全国小・中学校PTA広報紙コンクール (社)日本PTA全国協議会 奨励賞

大久保小学校父母と先生の会 「おおくぼ」
多賀中学校PTA 「たが」

第23回茨城県PTA広報紙コンクール 入選

大久保小学校父母と先生の会 「おおくぼ」
塙山小学校父母と先生の会 「はなやま」
多賀中学校PTA 「たが」
台原中学校PTA 「台原」



受賞おめでとうございます

編集後記

この度の広報誌の発行にあたり、多くの皆さまに多大なご支援・ご協力をいただきました。
情報委員一同、心より感謝申し上げます。

(情報委員会)